

Statistical Room



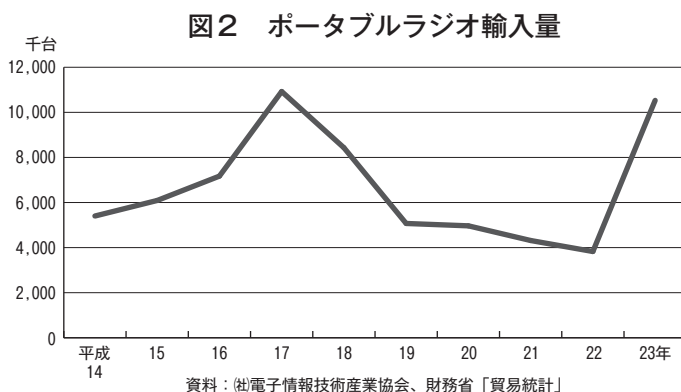
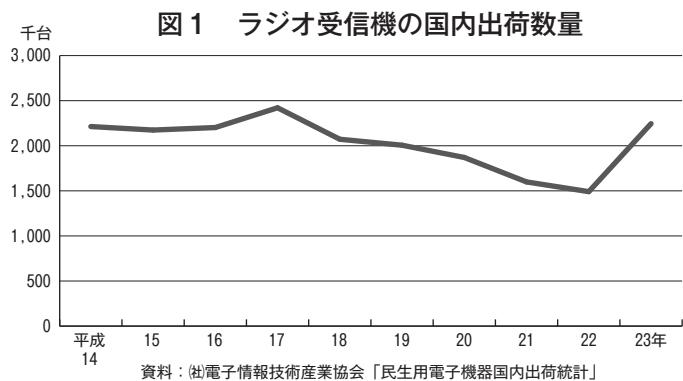
ラジオ

もうすぐ9月1日、防災の日ですが、皆さんは日頃から非常用持出品を準備しておられるでしょうか。

非常用持出品としてまずあげられるのが、水、食料品とならんで、懐中電灯、ラジオあたりではないでしょうか。

図1はラジオ受信機の国内出荷数量の推移をグラフにしたものです。

これまで減少傾向が続いていましたが、平成23年に大きく増加しています。これは東日本大震災後に需要が急増したためと思われる。



次に輸入量を見てみましょう。図2はポータブルラジオの輸入量の推移を表したものです。こちらも出荷数量と同じく23年に急増していることがわかります。

さて、今度は放送局数について見てみましょう。総務省の情報通信白書によると、FM放送のうちのコミュニティ放送局が年々増加しています(図3)。コミュニティ放送局は、放送エリアが限定されているため、地域に密着した情報を提供できること

が特徴で、災害時にもきめ細かな情報提供が期待されています。

災害時の情報伝達手段として注目されているラジオですが、何かをしながら聴くことができる、映像がない分イメージをふくらませやすい等といったテレビにはない特徴があります。

また、最近では、ラジオがなくても、パソコンやスマートフォンからも聴くことができるようになってきました。

普段はテレビ派の方も、たまにはテレビを消してラジオを聴いてみると、また気分が変わってよいのではないのでしょうか。

